

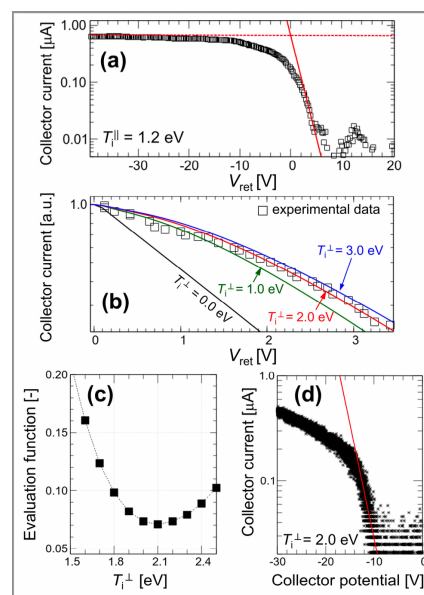
プラズマ・核融合学会誌

第100巻第6号

2024年6月

小 特 集	クォーク・グルーオン・プラズマ研究を含めた重イオン衝突物理の現状と展望	
	1. はじめに	北沢正清, 神藤勝啓 245
	2. 高エネルギー重イオン衝突によるクォーク・グルーオン・プラズマの発見 SPS と RHIC	小沢恭一郎, 佐甲博之 249
	3. クォーク・グルーオン・プラズマ物性の精密研究と将来展望	郡司卓 255
	4. RHIC におけるクォーク・グルーオン・プラズマ研究と QCD 相構造の探索	江角晋一 261
	5. 高密度クォーク物質探索の展望と J-PARC-HI	佐甲博之, 原田寛之 266
	6. まとめ	永宮正治 274
講 座	宇宙天気研究に基づく社会インフラ防護と被害予測	
	6. 送電網に対する太陽活動の影響	海老原祐輔, 亘慎一 277
	7. 磁気嵐の予測	三好由純 285
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト		292
インフォメーション		293
	幅広いアプローチ活動だより (109)	
本 会 記 事		295
	第41回プラズマ・核融合学会年会一般講演の募集／若手学会発表賞（正会員部門・学生会員部門） 【こちら編集委員会です】発表！2023年下半期の学会誌（7～12月号）でもっとも多くダウンロードされた記事はこちら！	

編 集 後 記



表紙の絵

(a) Retarding field analyzer (RFA) で得られた電流 - 電圧特性と (b) ラーマー運動による速度選択性を考慮したモデル計算との比較。
(c) 実験と計算の残差二乗和。垂直方向温度を 2.1 eV と仮定した計算が実験をよく再現することが示されている。(d) Ion sensitive probe (ISP) の計測結果。RFA で評価した垂直方向温度と ISP の計測結果がよく一致しており、RFA 単体の結果から 2 方向イオン温度を評価できる可能性を示した。

(Shigetaka KAGAYA *et al.*, Plasma and Fusion Research, Vol. 19, 1201021 (2024) <https://www.jspf.or.jp/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が公益社団法人日本複製権センター（(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体）と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません（社外頒布用の複写については許諾が必要です）。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 2F Tel: (03) 3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾（著作物の引用、転載、翻訳等）に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。